



## 第52回研究発表大会へのご案内

大会会長 古川 孝 順

これまでに例のない酷暑の季節も過ぎ、幾分か秋めいた空気が漂って参りました。

愈、日本社会福祉学会の50周年を祝う記念行事にはじまる全国大会の期日が迫ってきました。私ども東洋大学の白山キャンパスを会場に、3日間に渡る大会が開催されます。初日の10月9日には、記念シンポジウム、レセプションなど学会主催の50周年記念事業が催されます。引き続き、10日と11日の2日間が東洋大学社会学部福祉学科が運営に責任を持つ第52回研究発表大会です。

私ども東洋大学はわが国近代の黎明期に活躍した哲学者井上円了を学祖として1887(明治20)年に創設され、近々創立120周年を迎えることとなります。円了は「諸学の基礎は哲学にあり」と主張したことで知られておりますが、彼は哲学を「モノの見方、考え方」として捉え、それを高等教育を受けるだけの費用を準備できない若者たち、さらには一般庶民の生活のなかに広め、定着させることを願っておりました。私ども社会福祉学科の淵源は83年前の1921(大正10年)に夜間部に開設された社会事業科に遡りますが、そこには、このようなわが国近代の黎明期をリードした先覚者の一人である学祖円了の透徹した哲学観、科学観、そして熱意が反映されておりました。

学会創立50年、わが国の社会福祉学研究はこの52回大会を契機に新しい段階に飛躍することが期待されているように思います。そのことを意識しつつ、大会テーマを「社会福祉学研究50年の総括と展望」とさせていただきました。学祖円了のことばを援用していえば、これからの社会福祉学研究には、今まで以上に社会福祉を哲学すること、すなわちややもすれば経験的な知と技に頼りがちな社会福祉の実践を科学化し、さらにはそれを科学をうみだす実践に発展させ、熟成させることが求められているように思えてなりません。

今春以来、私どもは学会創設50周年という記念すべき節目に研究発表大会を開催運営する機会を与えられたことを感謝しつつ、準備を進めて参りました。思い起こせば、東洋大学は1978(昭和53年)に第26回の大会を主催しております。奇しくも25年前のこととなります。往事の東洋大学は木造を含め戦前戦後以来の古い校舎を中心としたキャンパスでしたが、そのなかでは比較的新しかった白山通り沿いの旧1号館を中心に大会を運営したように記憶しております。その時期に比べれば、今日の白山キャンパスは様相を一変しております。木造の校舎は一掃され近代的なビルが立ち並んでおります。いわゆる都市型キャンパスということになりましたが、なにぶんにも手狭です。皆様方をお迎えして3日間という大会期間を快適にお過ごしいただけるかどうか正直言って気がかりなところですが、現在関係者一同それぞれの持ち場で記念事業と研究発表大会の運営に齟齬が生じないよう全力をあげて準備作業を進めているところです。

わが国の研究と教育の発祥を象徴する文京区の北端、東洋大学白山キャンパスの地において、皆様のお越しを心からお待ちしております。



# 日本社会福祉学会 2004年度第1回 理事会

2004年8月1日(日) 13時30分  
 東洋大学2号館16階スカイホール  
 出席者別紙

掲載して会員との交流を図る、

- ③ 査読委員に指摘され、40枚では足りない傾向である。枚数を増やす検討をしたい。

**審議事項**

- 第1号議案 第52回(2004年)大会(学会創設50周年記念大会)について
- 第2号議案 第53回(2005年)大会(東北福祉大学)について [承認]
- 第3号議案 2003年度事業報告および決算報告・監査報告について [承認]
- 第4号議案 2003年度補正予算(案)(一般会計・特別会計) [承認]
- 第5号議案 2005年度事業計画および予算(案)(一般会計・特別会計) [承認]
- 第6号議案 50周年記念事業について
  - ① 招待状は発送準備をしている。
  - ② 会員の参加申込みは、はがきで約100名
- 第7号議案 『学会50年史』進捗状況について
  - ① 3年近くの準備の間で集めた原資料をどう取り扱うか検討していただきたい。
- 第8号議案 名誉会員の推挙(案)について
  - ① 三浦会員については案どおり承認。
  - ② 名誉会員の総会講演の際もてるか、次期理事会への課題としていただきたい。
- 第9号議案 国際学術国流費申合わせ(案)について  
 寄付金特別会計を設けるに際し、「支出細目」をとりきめる。8月1日より施行する。
- 第10号議案 学会賞について
  - ① 学術賞について、審査委員会から2点候補が挙がった。1論文は、英文であるが、2論文とも推挙したい。
  - ② 今後、外国語の論文は英語に限るとする。
  - ③ 広報のおかげで、時間が短いにも関わらず、多くの推薦を得た。しかしながら、推薦されないのは残念という図書もあり、推薦方法を考える必要がある。
- 第11号議案 「日本社会福祉学会研究倫理指針」(案)について
  - ① 名称は指針
  - ② 総会に諮り承認いただきたい。

**第13号議案 2004年役員選挙について**

- (船水浩行選挙管理委員長説明)  
 新しい選挙方法(地域担当理事を別途選挙する)により、選挙がおこなわれた。
- ① 開票は、投票用封筒到着日順にまた投票の匿名性を考慮し、名簿の混乱による投票の有効性を確認しながらおこなった。
  - ② 選挙用紙記入の不備により、無効票が多かった。

**第14号議案 会員入会審査について**

- ① 承認

**報告事項**

- (1) 名簿発行および選挙用紙送付ミスについて
  - ① 経過説明および今後名簿発行について、また選挙方法についても検討の必要がある。
- (2) 「社会福祉と実践」倫理小委員会について(3頁参照)

## 2004年度第1回理事会 出席状況

会 長	大 橋 謙 策	○
副 会 長	宮 田 和 明	○
特別委員会担当理事 (機関誌担当理事兼任)	秋 山 智 久	○
総務担当理事	白 澤 政 和	○
庶務担当理事	大 友 信 勝	○
渉外担当理事	黒 木 保 博	○
渉外担当理事	牧 里 毎 治	○
研究担当理事	井 岡 勉	○
研究担当理事	鬼 崎 信 好	○
研究担当理事	山 崎 美 貴 子	○
研究担当理事	阿 部 實	○
機関誌担当理事	岩 田 正 美	○
機関誌担当理事	米 本 秀 仁	○
北海道担当理事	松 井 二 郎	○
東北担当理事	高 澤 武 司	欠
関東担当理事	福 山 和 女	○
中部担当理事	中 田 照 子	○
関西担当理事	上 野 谷 加 代 子	○
中四国担当理事	中 嶋 和 夫	○
九州担当理事	硯 川 眞 旬	○
監 事	右 田 紀 久 憲	○
監 事	三 浦 文 夫	○

▼オブザーバー

- 古川 孝順 (東洋大学 第52回大会実行委員長)
- 秋元 美世 (東洋大学 第52回大会事務局長)
- 志田 民吉 (東北福祉大学 第53回大会開催校)

▼事務局 小林 萬里子

## 日本社会福祉学会 「社会福祉と倫理」特別委員会 報告

委員長 秋山智久

本委員会は、3年前に社会福祉の現代の課題としての「価値と倫理」を実践と研究の二側面で探求するために新設されたもので、本年10月で一応の任期が終了する。そこでこの二つの側面を検討してきた二つの小委員会の報告を行っておく。

### (1) 「社会福祉と実践」小委員会

本委員会には、二つの課題があった。一つは、日本学術会議の諸領域で検討されている「生命倫理」を社会福祉学の立場から、いかに考えるかを検討して来た。臓器移植や遺伝子診断などである。しかし、この課題は社会福祉学の中心からはやや遠い課題として、その動向を研究することに止まった。二つ目はソーシャルワーカー4団体（現在の社会福祉専門職連絡協議会、社專協）が検討中のソーシャルワーカーの「共通倫理綱領」に関してのパブリック・オピニオン聴取に対する応答として、02年1月にその「改訂試案」に、03年1月に「改定案」に対し、それぞれA4判5枚の意見を述べたことである。小委員会のメンバーは、秋山智久・志田民吉・野口尚・堀越由紀子・高山直樹の5人である。

### (2) 「社会福祉と研究」小委員会

本委員会は、本学会に関連した学会員の研究上の倫理問題を契機に、研究における倫理のあり方を検討し、他領域での学会に対しても、社会福祉学の研究の態度を示すものとして明文化を図った。それが「日本社会福祉学会研究倫理指針(案)」(11カテゴリー、37項目)を作成し、引用や調査等のあり方を示した。委員は、全員学会理事の秋山智久・米本秀仁・井岡勉・上野谷加代子・大友信勝の5人である。

本指針は最終案を10月の理事会で検討し、総会に提案する予定である。これは、本学会員の研究のあり方を示すに止まらず、社会福祉研究を行う全ての研究者・実践者にも有効なものとなることが期待されている。

## 名簿の取り扱いについて

「業者が日本社会福祉学会の名簿を使って勧誘等が起こっている」との連絡がありました。

学会名簿は、全会員のプライバシーが記載されたものです。そのため、取り扱いは、慎重にお願いいたします。

具体的には、①古い会員名簿は、シュレッダーや裁断機を使用したの会員のプライバシーが確保できる形で廃棄してください。②現在の会員名簿の管理については、他者に貸与したり、他者が容易に見ることが出来る場所においたりしないように、お願いします。

なお、前回廃棄してもらったようお願いしました訂正前の会員名簿のみ(2004年6月初旬会員のお手元に到着した濃紺の表紙の名簿)につきましては、本年10月末まで延長して、印刷所が着払いで回収しています。

詳しくは、日本社会福祉学会のホームページをご覧ください。

会員相互で、全会員のプライバシーを保護していく意識をもっていきましょう。

## 日本社会福祉学会学会賞 受賞研究業績の推薦についてのお願い

学会創立50周年記念事業の一環として、「日本社会福祉学会学会賞(学術賞・奨励賞)」が創設されることになり、第51回大会総会において、設置要綱が承認され、現在、第1回目の授賞式を本年10月10日の日本社会福祉学会総会にて実施することで進めております。

つきましては、第2回学会賞の推薦を始めたく、会員の皆様にご推薦をお願いいたします。

学会賞(学術賞および奨励賞)は、学会員のうちで顕著な研究業績を上げた者の顕彰および若手研究者の研究奨励を学会として積極的に起こすことによって、社会福祉研究の一層の発展に資することを目的としたものであります。

第2回学会賞の授賞式を2005年10月に予定されている日本社会福祉学会総会におこなうこととし、自薦・他薦により審査の対象となる研究業績を広く学会員から推薦していただきたいと存じます。

同封の「設置要綱」等をご覧の上、推薦書により積極的に審査の対象とすべき研究業績を学会事務局宛ご推薦ください。





# ブロック

## 活動

各ブロックの活動をご紹介します

## 活動

### 北海道部会 2003 年度事業報告

#### 1. 北海道社会福祉学会第 42 回大会の共催 (北海道社会福祉学会と共催)

- (1)開催日：2004 年 2 月 28 日（日）、10：00～15：00
- (2)会 場：北海道医療大学サテライトキャンパス
- (3)プログラム：
  - 10:00～10:10 開会の挨拶、オリエンテーション
  - 10:10～11:50 自由研究課題発表
  - 司会：北海道医療大学 鈴木 幸雄
  - ①児童養護施設における児童の問題行動と保護者の抱える問題に関する実証的研究
    - 北海道医療大学 鈴木 幸雄
    - 青森県立保健大学 佐藤 秀紀
    - 札幌社会福祉専門学校 秋元 洋志
  - ②小規模作業所の存立要因－NPOの議論との関連で  
北海道大学大学院 太田こずえ

③心身機能活性療法を取り入れた通所介護（デイ・サービス）事業に関する実践報告  
－生活機能改善事例を通して－

- 有限会社 まごころ 伊藤千鶴子
- 北海道医療大学大学院 松浦 智和
- 北海道医療大学大学院 林 瑠美

④北海道における苦情解決システムの現状

- －北海道福祉サービス運営適正化委員会受理・苦情事例から－
- 北海道医療大学 大友 芳恵

13:00～14:30 記念講演

- 司会：北海道医療大学 花澤 佳代
- 「ソーシャルワーク実践における価値と倫理」
- 日本女子大学 牧野田 恵美子 先生

#### 2. 学会誌「北海道社会福祉研究第 24 号」の発行

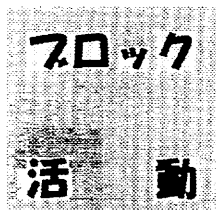
(北星学園大学 松井二郎)

### 東北部会 2004 年度 活動報告

1. 第 3 回研究大会（秋田大会）について  
平成 15 年 7 月 20 日（土）・21 日（日）秋田桂城短期大学（秋田県大館市）にて東北ブロック第 3 回研究大会を開催した。初日は、一般公開の基調講演とシンポジウムを行い、参加者は約 120 名を数えた。基調講演とシンポジウ

ムでは、「秋田県における自殺問題」をテーマに、その実態と予防の取組み、さらには地域における自殺問題への対応を地域福祉の観点から論議することができた。また、自由研究発表（12 題）では活発な意見交換が行われ、実り多い研究大会となった。なお、研究大会のプログラムは以下のとおりであった。

1 日目 (7 月 20 日)		
◆基調講演		
①「秋田県における自殺の現状報告」 秋田大学医学部保健学科助教授 佐々木 久長氏		
②「精神科医からの自殺予防の提言」 笠松病院院長 稲村 茂氏		
◆シンポジウム「秋田県における自殺予防と地域活動」		
①「保健師としての取り組み」 藤里町保健師 夏井 サチ 氏		
②「住民と行政の協働」 藤里町心といのちを考える会会長 袴田俊英氏		
③ 全体討議（司会：佐々木久長氏 助言者：稲村茂氏）		
2 日目 (7 月 21 日)		
No	演 題	発表者（○は共同研究の発表者）
第 一 会 場	1 「青森県における救護施設の現状と課題」	○杉山克己（青森県立保健大学） 吉川公章 （青森県立保健大学） 上原 久（聖隷福祉 事業団）
	2 「福祉リスクマネジメントと苦情解決制度 ～介護事故の 裁判例を通じて～」	菅原好秀（東北福祉大学）
	3 「地域福祉計画を想定した社会福祉調査の事例 －高齢 者・障害者に配慮した居住機能－」	○都築光一（弘前学院大学） 関田康慶（東北 大学大学院） 前沢政次（北海道大学医学部附 属病院）
	4 「地域福祉活動計画の策定における社会福祉協議会の事 業評価」	増子 正（仙台大学）
	5 「通所事業所における危機管理とサービス管理 －介護事 故事例を通して－」	内藤新次（東恵園地域生活支援センター）
	6 「精神障害者の家族支援 －構成主義アプローチの試み －」	大和田誠子（仙台白百合女子大学）
	7 「地域福祉におけるフォーカスグループの効果 ～住民主 体の質的評価における意義～」	○大富 和弘（岩手県立大学大学院） 本山潤 一郎（岩手県立大学大学院） 中村将洋（岩手県 立大学大学院） 野村 豊子（岩手県立大学）
	8 「高齢者の生活支援をめぐるケアマネジメントの課題 － 高齢者虐待問題を中心に－」	大和田 猛（青森県立保健大学）



各ブロックの活動をご紹介します



第二会場	9	「ケアマネジャーのアイデンティティとはープラットフォームの構築という視点からー」	高橋英弘 (たかはし精神保健福祉士事務所)
	10	「権利擁護に見る成年後見制度を中心とした現状と課題について」	鎌田真理子 (いわき明星大学)
	11	「福島県における老人家庭奉仕員事業の出発」	本田 久市 (福島学院短期大学)
	12	「地場産業を支援方法として取り入れた試みに関する一考察」	千葉千恵美 (東北生活文化大学)

2. 日本社会福祉学会東北部会幹事会について

(1) 平成 16 年度東北部会研究大会 (青森大会) の実施について了承された

平成 16 年 7 月 18 日 (土)・19 日 (日)

会場：弘前学院大学 (青森県弘前市)

(2) 日本社会福祉学会東北部会において研究報告書の発行について提案され、了承された。

当面は、研究報告書では、研究大会の要約記録と自由研究発表の報告を中心に編集することとした。

3. 日本社会福祉学会東北部会 地区連絡員について

地域での学会活動を支援するために、各県に地区連絡員を依頼しており、以下のとおりである。

- ①青森県 大和田猛 (青森県立保健大学) 幹事兼務  
長内幸雄 (青森大学)  
千葉智正 (弘前学院大学)  
黒澤貞夫 (弘前福祉短期大学)
  - ②秋田県 柴田博 (秋田桂城短期大学)
  - ③宮城県 鈴木弥生 (仙台大学)  
阿部重樹 (東北学院大学)
  - ④岩手県 田中尚 (岩手県立大学)
- ※福島県、山形県の地区連絡員は未定

関東部会事業報告

1. 運営委員会・総会

運営委員会と各部門委員会を 6 月 14 日、9 月 10 日、10 月 4 日、10 月 23 日、12 月 7 日に、合計 9 回実施した。

総会は、12 月 7 日に開催した。

2. 研究集会

「実践の科学化、研究方法論の構築を目指して」をテーマに小規模・参画型の研究集会を 2 回実施した。

第 1 回研究集会：12 月 7 日 参加者 91 名

・理論部門 「社会福祉政策形成への理論の貢献ー社会福祉政策学とは何かー」

発題：平岡公一先生、栃本一三郎先生

コーディネーター：栃本一三郎先生

・制度部門 「社会福祉改革と支援費制度の展開について パート 1

ー措置・中央集権からの契約・地方分権という制度改革の研修ー」

発題：蟻塚昌克先生、中村昭雄先生

コーディネーター：川池智子先生

・方法論部門 「家族支援の科学化への試み」

発題：池田純子先生、荻野ひろみ先生、堀越由紀子先生

コーディネーター：福山和女先生

第 2 回研究集会：3 月 7 日 参加者 94 名

・理論部門 「社会福祉ニーズをめぐって」

発題：岩崎晋也先生、山森亮先生、岩田正美先生

コーディネーター：川上昌子先生

・制度部門 「社会福祉政策と支援費制度の展開について パート 2

発題：高橋紘士先生、岡部耕典先生、旭洋一郎先生

コーディネーター：瓜巢一美先生

・方法論部門 「シーティングーよりよく座るー」  
講義と実習

講師：「シーティングの知識と技術」

木乃瀬隆先生

「福祉職・介護職の行うシーティング援助」

渡辺裕美先生

コーディネーター：渡辺裕美先生

3. ニュースレター

会員への情報の周知を目的に 2 回の発行。20 号 9 月

6 日発行、21 号 2 月 9 日発行。また、研究集会案内として

11 月 16 日に号外を発行。

4. 研究論文集

研究論文集「社会福祉学評論」第 4 号・3 月 7 日発行

2003 年度中部部会報告

1. 幹事会の開催 4 回

2. 研究大会 2 回

(2003 年 4 月 19・20 日 12 月 6 日)

・春の例会 4 月 19 日 (土) 参加者 120 名

シンポジウム「地域福祉計画及び支援計画における策定をめぐって」

4 月 20 日 (日) 参加者 70 名

自由研究発表 (3 分科会)

・秋の例会参加者 12 月 6 日 (土) 62 名

シンポジウム

「介護保険の『見直し』を検討する」



# ブロック 活動

## 各ブロックの活動をご紹介します

# 活動

3. 3003年度 中部部会幹事  
 理事 宮田和明 (日本福祉大学)  
 地方理事 中田照子 (同朋大学)  
 常任幹事 高島 進 (関西国際大学)  
 小松理佐子 (日本福祉大学)  
 高森敬久 (金城学院大学)  
 田中顕吾 (みずほ大学)  
 野口典子 (中京大学)  
 藤田博仁 (愛知県立大学)  
 安井理夫 (同朋大学)  
 吉村公夫 (名古屋市立大学)  
 竹原健志 (岐阜大学)  
 佐々木隆志 (静岡県立大短大部)  
 穴戸明美 (中部学院大学)  
 村上貴美子 (東海女子大学)  
 中井健一 (岐阜経済大学)  
 地方幹事 石原剛志 (長野大学)  
 矢上克己 (金城大学)  
 宮田信明 (富山短期大学)  
 小林明子 (福井県立大学)  
 萩 吉康 (皇學館大学)  
 事務局 杉本貴代栄 (金城学院大学)  
 林 智樹 (金城学院大学)  
 会計監査 浅野正嗣 (金城学院大学)

4. 2003年度 総会  
 日時: 2003年4月19日(土) 17:00 ~ 17:30  
 場所: 中京大学や八事校舎  
 (1) 日本社会福祉学会理事会報告  
 資料として「ソーシャルワークができる社会システムづくりへの提言」全文を配布  
 (2) 2002年度事業報告と会計報告  
 (3) 2003年度事業計画(案)と予算(案)  
 (4) 2003年度中部部会幹事(案)

## 関西部会 2003年度報告

- 2003年度の主な活動は、  
 ① 近畿地域福祉学会と共催で国際セミナー「21世紀のアジアからみた日本の社会福祉を考える講演会」『今ベトナムに何が起きているのか〜ベトナムの社会福祉から学もの〜』を開催したこと。  
 ② 機関誌『関西社会福祉学』第1号を発行したこと。  
 ③ 四天王寺国際仏教大学で開催された第51回日本社会福祉学会に協力したこと、などであった。

かねてよりの懸案事項であった関西社会学会と日本社会福祉学会関西部会の組織統合問題は、総会において規約改正をおこない、組織運営の安定がはかられた。諸事情により、2004年5月16日に2003年度関西部会年次大会、総会が同志社大学今出川校舎地寒梅館において開催された(約80名参加)。

岡本民夫会長の記念講演「社会福祉の新展開〜研究方法論をめぐって〜」、総会后新企画として、大学院生情報交換会がおこなわれた。

また、懇親会も総会終了後おこなわれ、情報交換会終

了終了後の院生も合流し、有意義な一日を過ごした。  
 (上野谷加代子)

## 中国四国部会 2003年度事業報告

- 部会運営委員会を2回開催した。
- 第35回中国四国部会大会の開催  
 2003年5月31日、6月1日  
 (於: 川崎医療福祉大学)  
 大会テーマ: 利用者の権利擁護  
 (1) 特別講演  
 テーマ「現代家族に見る権利侵害一家族の心の健康という視点から」  
 亀口憲治 (東京大学)  
 対談「現代社会における権利擁護—心理・医療・社会学的な視点から権利擁護を考える—」  
 亀口憲治 (東京大学)  
 岡田喜篤 (川崎医療福祉大学)  
 コーディネーター: 石川瞭子 (川崎医療福祉大学)  
 (2) 基調講演  
 テーマ「韓国における利用者の権利擁護」  
 嚴 基郁 (韓国: 国立郡山大学)  
 (3) シンポジウム  
 テーマ「韓国と日本の利用者の権利擁護」  
 コーディネーター: 香川幸次郎 (岡山県立大学)  
 シンポジスト: 井上雅雄 (弁護士)  
 妻井令三 (呆け老人をかかえる家族の会)  
 菊池達男 (旭川荘いずみ寮)  
 佐賀雅宏 (日常経済生活サポートセンター)  
 (4) 一般研究発表 11題
- 総会の開催  
 2003年6月1日(於: 川崎医療福祉大学)
- 研究発表論文集を発行した。
- 会報を2回発行した。

## 2003年度 九州部会事業報告

- 運営委員会  
 7月19日 第1回運営委員会 (於: 頤和園 福岡市)  
 10月12日 第2回運営委員会  
 (於: 四天王寺国際仏教大学)
- 2003.11.1 第44回 福岡県立大学  
 テーマ: 障害者支援費制度のあり方を考える  
 シンポ: 「障害者支援費制度の現状と課題」  
 コーディネーター: 門田光司 (福岡県立大学)  
 シンポジスト: 川尻主史 (北九州市保健福祉局障害福祉課)  
 柳沢 亨 (北九州市障害者支援センター「レッツ」)  
 窪田次男 (重症心身障害者施設「久山療育園」地域療育部)  
 岩田美奈子 (ケン・インターナショナル株式会社「介護サービスのフロイデ」)  
 (文責 硯川真旬)



## 名誉会員 嶋田啓一郎先生を偲んで

嶋田啓一郎先生が2003年9月24日、93歳の生涯を終え天に召されて、早いもので1年を迎えようとしている。先生は1941年4月同志社に入社し、同志社大学文学部助手、助教授、教授、また大学院文学研究科教授を歴任し、1980年3月の退職まで39年間を社会福祉学研究与教育のために務められた。研究教育だけではなく、学内では法人理事・監事、大学評議員、文学部長などの役職を務められたが、学外においても社会保障審議会をはじめとする各種の審議会や委員会の委員を務められた。とりわけ、社会的基督教思想の重鎮であった中島重氏の門下生であり、またキリスト教社会運動家賀川豊彦氏を思想的恩人として仰いでいた先生は、生活協同組合・全国大学生協活動には強く関わりをもたれ、生涯にわたってこれらの実践の先頭に立たれた。いつも温和でにこやか微笑みを絶やすことなく学生に接しておられたが、いざ講義が始まると「教室は学生と教師の真剣勝負の場」とであると言明され、熱弁をふるわれていた。生涯を通じて、時間を大切に管理しながら、研究・教育・実践のどれについても手を抜くことなく、常に「全力投球」をされた先生であった。まさに、強靱なる体力、知力、精神力そして判断力を持っておられたといえよう。

日本社会福祉学会創設時からの会員として、また理事として8期の長きに渡り、学会活動とその発展に貢献をされた一人である。また、1983年から1990年まで日本基督教社会福祉学会会長も務められているが、先生が関心をよせた研究領域は、「思想と倫理」、「理論」、そして潜在能力を引き出すことを踏まえた人間行動理解の課題としての「実践」であった。主著『社会福祉体系論』（ミネルヴァ書房、1980）の副題「力動的統合理論への途」にあるように、先生は「力動的統合理論」を打ち立てようとした。これは社会科学の視点からの「政策・制度論」と人間行動科学の視点からの「方法論」の双方の必要性を説き、両者を統合的にとらえながら力動的な把握をするあり方を追求したことに特徴がある。また「構造・機能・価値」主義に立ち、一貫して政策論の中に、人すなわち「価値」を課題として明確に入れるべきだと主張された。このような数々の研究業績は、新しい福祉サービスを求めている21世紀のわが国において、社会福祉のあり方とその根幹を問う課題をすでに提起しておられたと改めて考えさせられている。嶋田啓一郎先生のご冥福をお祈りします  
(同志社大学 黒木保博)

## 事務局連絡

- ▼ 7月20日以降に大会参加申込みをされ、口座が閉鎖で申込みができなかった会員の方は、当日申込みでご参加ください。発表される会員の方も別途参加申込みは必要です。
- ▼ 学会事務局へ連絡先が届けていないため、大会関係の資料がお手元に届いていない方がいらっしゃるようです。すでにプログラムは、大会事務局より発送されています。未着の方は、大会事務局へお問い合わせ

わけください(03-3045-8329)。

- ▼ 学会からのお知らせがメール便で発送される場合があります。メール便は転居先まで転送されず、情報が届かなる恐れがあります。転居の届けは速やかにこなってください。
- ▼ 本年実施の選挙結果については学会ホームページに掲載しています。ご覧ください。

## 編集後記

日本社会福祉学会50周年記念(通算第52回大会)が東洋大学において10月9-11日の3日間にわたり開催されます。大会テーマは「社会福祉学研究50年の総括と展望」であり、大会企画、学会企画のシンポジウムも予定されています。

本学会50周年記念事業として記念シンポジウム、記念式典、記念パーティが10月9日に行われます。本学会50年史も当日に発刊されます。50年史編集委員会の宇都栄子委員長をはじめ関係の委員のご苦勞に感謝を申し上げます。また、50周年を記念し、はじめて学会賞(学術賞および奨励賞)の授与があります。今後も各会員からの学会賞候補の研究業績を自薦、他薦してほしいと考えています。

第1回審査委員会は三浦文夫委員長を中心に審査の基準、方法等を考えて下さり、本大会に間に合わせて下さいました。そのご労苦にお礼を申し上げます。

本大会の総会において、第20期の役員任期が終わります。新しい規約に基づく選挙を実施し、若干の問題もありましたが総務担当理事を中心に迅速、適切に対応し、無事すませることが出来ました。選挙管理委員会に特別のお手間をおかけしたことをお詫びし、ここに感謝申し上げます。改めて、4700人を超える会員からどのように役員を選出するのか。次は自薦、他薦を含む選挙方法を検討すべき時期に来ているように思います。

新たな第21期の新役員体制のもとで、ブロック担当理事も初めて選挙選出ということになり、今後の部会活動の発展につながるものと考えています。

本大会の総会に日本社会福祉学会研究倫理指針(案)が提案されます。これからの社会福祉学研究的あり方を示すものであり、有効にいかしていきたいものだと思います。(大友信勝)

発行人 大橋 謙策 学会ニュース 37号

編集人 白澤 政和

発行日 2004年9月25日

発行 日本社会福祉学会

〒160-0008 東京都新宿区三栄町8

森山ビル西館501

TEL. 03-3356-7824 FAX. 03-3358-2204

Email jsssw@jt2.so-net.ne.jp

URL <http://www.soc.nii.ac.jp/jssw/>

年会費振替(振込)口座(日本社会福祉学会)

・郵便口座 00150-5-59882

・銀行口座 みずほ銀行四谷駅前支店/普/1859336

(8月末現在会員数 4,734人)